

令和6年
新春
特別号



白山石川医療企業団 だより

これまでも そして これからも



白山市の花：あさがお



野々市市の花木：ツバキ



川北町の花：カワラナデシコ

白山石川医療企業団



公立 松任石川中央病院



公立 つるぎ 病院

トップメッセージ 年頭のご挨拶



白山石川医療企業団
企業長 卜部 健

地域のちから

新春のお慶びを申し上げます。
世界のいたるところに暗雲が立ち込め、先行きが不透明な時代となっております。国内においても、日本のいろいろな意味での「ちから」が落ちてきて、なにか元気がないように感じられます。

これら社会情勢の変化は、われわれを取り巻く医療・介護・福祉にも当然ながら影響を及ぼしています。2025年問題に象徴される高齢社会に対する対策の確立も待たなしの状況まで来ています。さらには急速に高齢化が進むなかで疾病構造が変化・多様化し、医療が果たすべき役割も大きく変化しつつあります。その中で急性期病院が担当する「治す医療」から、住み慣れた地域でいつまでも生活できるような「支える医療」の社会的ニーズはますます高まりつつあり、「地域完結型の医療・介護」が求められております。

今こそ「地域のちから」を示すときだと思います。地域の皆様がそれぞれ助け支えあって、明るい元気な社会を構築してゆきましよう。われわれ白山石川医療企業団も地域に密着した医療介護機関として、公的な立場で「地域のちから」の一翼を担えるよう皆様の全力でサポートしたいと思っております。
本年も皆様のご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。



公立松任石川中央病院
病院長 高澤 和也

日日は好日

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。約7年前に金閣寺で一枚の色紙に出会いました。それには、京都大学教授でアジア初のノーベル化学賞を受賞された福井謙一先生のお言葉で、昭和60年（1985年）に「百不知・百不念」（ひやくふち・ひやくふえ、と読むそうです）と書いてありました。これを見た時には読むことも出来ず、意味も全く知りませんでした。何故か気になり自分の記憶の中に留めていました。改めて調べてみると、佐藤隆定副住職によれば禅語として、この人生、生き死に、明らかにするべきは、「わからない」ということをはっきりとわかり、自分とは問いであり謎そのものであることを自覚することであるのかもしれない。そうした心から発せられたのが「百不知百不念」。「私は何も知らない、何も理解していない」という言葉だったのではないかと、と説いてあります。

年が明けるとは？医療とは？人間とは？いろいろな疑問を持ちながら令和6年を新たな気持ちで挑みたいと思えます。とは言いつつ小難しいことはさておき、お陰様と感謝をし、日日は好日で、仲間・家族・患者さんと平和におしゃべりをして笑顔でいられることが最も幸せであると感じます。

今年は当院の第七次増改築が本格的に始まります。これにより、ぬくもりとおもいやりの医療がさらに発展する、という夢に向かって全員で進みたいと思えます。この辰年が皆様に幸多くなることをお祈りし、また、今後も末永いご支援をお願い申し上げます。



公立つるぎ病院
病院長 谷 卓

地域と人に優しい オンライン診療を

謹んで新春の祝詞を申し上げます。
昨年は新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、多くの行動制限が解除された一方で、大規模な国際紛争や世界的なインフレがおさまらず、まさに明と暗が混在した一年でした。今年はどういう一年になるのでしょうか。医療福祉においては6年に1度の医療、介護、障害福祉サービスのトリプル報酬改定が行われます。加えて第8次医療計画がスタートし、これからの人口減少、高齢化社会への新たな対応が求められることとなります。

そのような状況の中、広大な白山ろく地域の医療福祉を担う当院では、いかにして医療の質を担保しつつ効率化をはかるかが重要な課題です。その方策の一つとしてオンライン診療が挙げられます。対面診療が当たり前であった時代からすると不安と戸惑いがぬぐいきれないかと思いますが、少しでも地域と人に優しい体制となるよう取り組んでまいります。

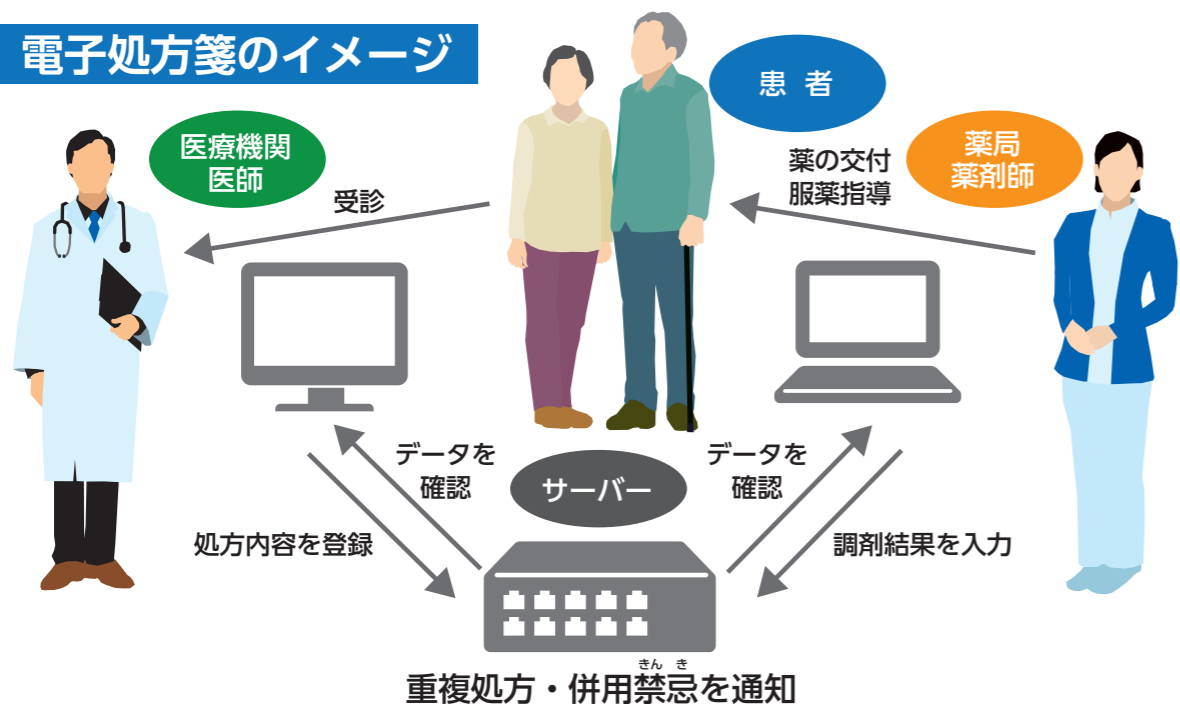
辰年は「激動」や「変革」の年といわれます。時代の「激動」に流されることなく「変革」を好機ととらえ、これまで以上に地域の皆様に愛される病院を目指して職員一同頑張っておりますので、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

特集 1 患者、医師、薬剤師 三方よしの電子処方箋スタート

さらなる安全、適切な処方に向けた 「病薬連携」に弾み

公立松任石川中央病院は、デジタル技術を活用した「医療DX」を、地域の関係機関と連携しながら推進してきました。令和5年8月にはその一環で「電子処方箋」のシステム運用をスタートさせました。厚生労働省大臣官房総務課企画官で、電子処方箋サービス推進室長の伊藤建氏が6月の地域医療連携機関交流会でこのシステムについて、「医療DXの先行導入地区としての知見を全国に展開させたい」と述べるなど、全国的に注目されています。

電子処方箋のイメージ



これまでの「医療DX」の取り組みが評価され、当院は厚生労働省から電子処方箋の普及拡大に向けた波及効果が大きい医療機関として選定されています。

電子処方箋の システム運用が スタート

公立松任石川中央病院は令和5年8月より、「電子処方箋」のシステム運用を開始しました。紙の処方箋を電子化し、病院の医師と薬局の薬剤師がオンラインでやりとりするものです。安全、かつ適切に薬を処方するだけでなく、医師や薬剤師もよりスムーズに業務を進めることが可能で、病薬連携の充実に期待が寄せられています。

医師、薬剤師が処方箋や調剤内容を登録していく仕組みになっていきます。仮に重複投薬や飲み合わせの悪い薬があった場合は自動でアラートメッセージが表示されるため、これまで以上に患者さんに優しい処方を提供することができそうです。

既に病院では近隣の41薬局と患者情報を共有する体制を整え、薬剤師は病院の電子カルテを閲覧しながら服薬指導を行っています。医師側も実際に処方された薬の銘柄や別の医療機関から出ている薬の情報を把握し、より質の高い医療の提供に役立っています。

対応できる薬局は53カ所（令和5年10月末現在）ですが、参加の意向を示している薬局は多く、さらに拡大していく予定です。



●令和5年1月、石川県内初となるウロリフト（経尿道的前立腺つり上げ術）を導入しました（つるぎ）

公立松任石川中央病院のスマート受診サービス — スマホPHRアプリ —



●10月に行った健康フェア2023において、サルコペニアに関する講演会を開催（つるぎ）



「NOBORI」アプリは
下記のQRコードから
インストールできます。



登録者の約半数は50歳以上で、来院者のあいだでも好評を得ています。

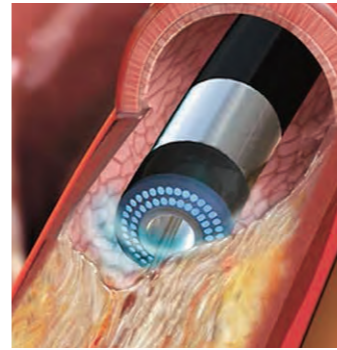
「NOBORI」アプリは、自宅からでも予約受付を行えるほか、診察後も診察終了とほぼ同時に病院から連携する薬局に処方情報が自動的に送信されるので、待たずに薬局で薬を受け取ることができます。クレジットカードを事前に登録すると会計を待たずに後払いできるので、会計の順番待ちもありません。

さらに、自宅からでも予約受付を行えるほか、診察後も診察終了とほぼ同時に病院から連携する薬局に処方情報が自動的に送信されるので、待たずに薬局で薬を受け取ることができます。クレジットカードを事前に登録すると会計を待たずに後払いできるので、会計の順番待ちもありません。

スマートフォンで診療内容や薬の情報を確認できるだけでなく、病院での滞在時間短縮にも使える機能を備えたアプリ「NOBORI（ノボリ）」が、公立松任石川中央病院に加え、公立つるぎ病院でも利用できるようになりました。既に両院合わせて約1万人が登録、自身の受診に役立てています。

スマートフォンアプリ「NOBORI」を公立つるぎ病院でもスタート

スマートフォンで診療内容や薬の情報を確認できるだけでなく、病院での滞在時間短縮にも使える機能を備えたアプリ「NOBORI（ノボリ）」が、公立松任石川中央病院に加え、公立つるぎ病院でも利用できるようになりました。既に両院合わせて約1万人が登録、自身の受診に役立てています。



●エキシマレーザーのイメージ図（松任）



●令和5年10月、エキシマレーザーを導入。最先端の循環器医療が提供できる体制を整えました（松任）



●手術支援ロボット「ダヴィンチ」での手術の様子（松任）



●白山石川医療企業団の取り組みを説明する横山副企業長（松任）



●診断目的に合わせた撮影ができる歯科パノラマCT（松任）



●今回導入したPET/CTは被ばく線量の低減、高解像度の画像取得が特長です（松任）

「ダヴィンチ」の活用を加速

公立松任中央病院では、がん診療体制の強化に取り組んでいます。

まず、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の活用があります。平成27年に北陸の医療機関でいち早く導入し、前立腺がんの全摘手術から対応をはじめ、初年度の手術件数は26件でしたが、腎臓や腎盂、尿管など対象部位の広がりとともに増え、令和4年度は74件に達しています。

令和3年4月に胃がん手術に対応し、令和4年8月には石川県内の他病院に先駆けて開始した結腸がんに加え、令和5年4月からは直腸がんへの導入も始めました。大腸がんは結腸がんと同様に分類できますが、これにより、ほぼ全ての大腸がんを「ダヴィンチ」で手術できるようになりました。

「ダヴィンチ」による手術では、3Dカメラとロボットならではの多関節機能により、開腹手術や腹腔鏡手術では難しかった骨盤深部での操作が可能です。そのため、直腸がん手術においても、排尿や排便、性功能を司る神経を温存しながら、骨盤という狭い空間にあるがんを取り除くことができます。

胃がん手術は令和3年4月から64例、結腸がん手術は令和4年8月から38例、直腸がん手術は令和5年4月から10例を、それぞれ令和5年10月までに実施しています。また、令和5年9月にはPET-CTを、従来に比べて低被ばくでありながら、より鮮明な画像が撮影できる機種に更新しました。

心臓カテ治療や歯科口腔外科でも新技術を導入

その他の診療体制についても充実を図って

います。心臓カテーテル治療では血栓や血管の固くなった部位を取り除くエキシマレーザーを導入し、最先端の循環器医療を提供できる体制を整えました。エキシマレーザーとは紫外線領域の波長を有するレーザーで、熱をあまり発生させずに物質の分子結合を切断することによって組織を蒸散させる特性があります。カテーテルの先端からエキシマレーザーを照射することにより、冠動脈内の動脈硬化病変を取り除くことができます。

歯科口腔外科では、歯科用CTレントゲン装置を導入し、肉眼では見えにくい部分を側方から撮影し、分析・診断を行うセファロ撮影が可能になりました。安心・安全な顎関節症手術等に役立てています。

4年ぶりに地域医療連携機関交流会を開催

また令和5年6月、「第9回地域医療連携機関交流会」をブランドホテル白山で開催しました。およそ4年ぶりの開催となり、会場には150人を超える市内外の医療機関・介護福祉施設職員が出席し、意見交換を行いました。地域医療支援病院として「こうした顔の見える連携の推進」にも寄与しています。

講演会では「医療DXにおける電子処方箋の積極的導入」と題して白山石川医療企業団の横山副企業長が講演しました。このなかで横山副企業長は、令和5年8月から導入した電子処方箋システムについて説明し、「重複投薬や余らせて廃棄される薬は国内で年間1兆円分」という見方があることに触れつつ、電子処方箋はそうした無駄を防止し、医療費の効率化に貢献する役割が期待できることも示唆しました。

骨折・筋力低下の予防と前立腺肥大症治療に注力

公立つるぎ病院では、高齢者に多く見られる「サルコペニア」（加齢による骨折や筋力の低下のこと）、「前立腺肥大症」の治療や予防に力を入れています。

サルコペニアになると、歩く、立ち上がるなどの日常生活の基本的な動作に影響が生じ、介護が必要になったり、転倒しやすくなったりします。病気になる前に重症化しやすくなり、生存期間にも影響があるとされています。

そこで、医師や看護師、リハビリテーションスタッフらがチームとなって、生活習慣の改善や自宅の改修などをアドバイスして、予防に努めています。また基礎疾患などで受診した際に握力検査などによって全身の筋力低下、運動能力が低下している人を見つけ、医師による指導・治療を受けるよう勧められています。

前立腺肥大症は、男性の尿道が狭くなる疾患で、代表的な症状は、「頻尿」「尿が出にくい」「残尿感」などです。治療では、尿道に専用器具を入れて針状の留め具を使い、前立腺を釣り上げて尿道を広げる手術と、専用器具から熱い水蒸気を前立腺内部から噴霧して前立腺を小さくすることにより尿道の閉塞を介助する治療法を導入しています。

いずれも患者さんの身体的な負担が従来の治療よりも小さく、90歳以上でも受けることができますが、両方の治療法を行えるのは、石川県内では公立つるぎ病院のみ（令和5年11月時点）です。

企業団連携 医療機関一覧

浅井小児科医院	しおのやクリニック	野々市こころのクリニック
あさがおクリニック	耳鼻咽喉科つかたにクリニック	のいち産婦人科クリニック
有川整形外科医院	嶋医院	のいち整形外科脊椎外科クリニック
池田クリニック	下崎整形外科医院	野々市なずな診療所
池田病院	しらお眼科	のいち白山醫院
いこまともレディースクリニック	新しくにつく	野々市よこみやクリニック
石倉内科医院	新内科医院	はしもと内科クリニック
今村耳鼻咽喉科医院	新村病院	ばんどう内科・呼吸器クリニック
井村内科・腎透析クリニック	すえよし整形外科クリニック	福留クリニック
ういえ耳鼻咽喉科クリニック	せいだクリニック	船木医院
うえの整形外科	聖来美クリニック	ふるさわ内科クリニック
うしむら眼科クリニック	だいもん内科・腎透析クリニック	べんクリニック
岡村内科医院	多賀クリニック	ほりかわクリニック
御経塚クリニック	高田内科クリニック	前田眼科クリニック
織田内科クリニック	たけお皮膚科クリニック	松任整形外科クリニック
小野木医院	ただなわ整形外科クリニック	松葉外科胃腸科クリニック
かがやきクリニック	谷内科歯科クリニック	南ヶ丘病院
かがやき在宅診療所	ちくだ医院	みやうち眼科
金沢消化器内科・内視鏡クリニック野々市中央院	千代野苑	みやた整形外科
金沢脳神経外科病院	つじ川内科クリニック	三幸小児科医院
金沢みんなクリニック	津田内科医院	むとう小児科医院
かわい小児科医院	津山クリニック	メディカルらいふクリニック
川北温泉クリニック	津山整形外科クリニック	矢ヶ崎外科医院
川北こどもクリニック	てらしま内科クリニック	安原医院
かわきた整形外科醫院	ときわ病院	やなぎ内科クリニック
喜多内科医院	とみたクリニック	やまかわ内科クリニック
きむら耳鼻咽喉科クリニック	長尾医院	山本クリニック
きりの里診療所	なかざわ腎泌尿器科クリニック	やまもと内科医院
恵愛会 松南病院	ながしまクリニック	吉光内科医院
斉藤小児科医院	なかでクリニック	わかば内科クリニック
酒井内科クリニック	中村皮フ科クリニック	わかばやし眼科クリニック
さかえ内科クリニック	なごみ苑	渡辺耳鼻咽喉科医院
真田医院	なんぶこども医院	
さなだクリニック	にしかわクリニック	

(50音順)

特集
2

公立つるぎ病院がオンライン診療を準備 3診療所とともに地域医療を守りぬく

薬の治療では新システムを活用して 連携薬局による薬の配送も実施する

公立つるぎ病院は吉野谷、中宮、白峰の3診療所とテレビ会議システムで結ぶオンライン診療の導入に向けて準備を進めています。調剤薬局との連携による薬の治療も行える体制を整えます。高血圧などの経過観察や、処方中心の疾患などが対象症例になりますが、「医療DX」を活用しつつ、地域の医療を守りぬいていきます。

オンライン診療では、患者さんはそれぞれの診療所へ行き、病院の医師と画面越しに向き合って身体の状態を説明します。医師が心音などを聞く際は、診療所にいる看護師が聴診器を当てるなどの対応をとりまいます。対象疾患は高血圧などの経過観察や処方中心の疾患となります。白山ろく在住の患者さんは診療日を予約し、オンライン診療による経過観察を受けられます。薬の治療が必要な場合は診療所と連携する薬局に処方情報を送信し、薬局から患者さん宅に薬を配送します。処方箋の電子化も進んでおり、医師と薬剤師がオンラインでやり取りするシステムの運用も始まっています。現在はいずれの診療所も医師が配置されているため、この仕組みを導入させる必要はありませんが、住民の健康維持に最善の手当をするため、病院はITの仕組みを活かした「医療DX」による診療体制の準備を進めているのです。公立つるぎ病院は「3診療所の統廃合は考えていない」という方針を打ち出しています。河内、吉野谷、鳥越、尾口、白峰の旧5村では、診療所こそが地域住民の命をつなぐ重要拠点と考えているためです。この地域には診療所以外の医療機関は1施設しかありません。病院や診療所に来ることが難しい住民に対する訪問診療も継続します。

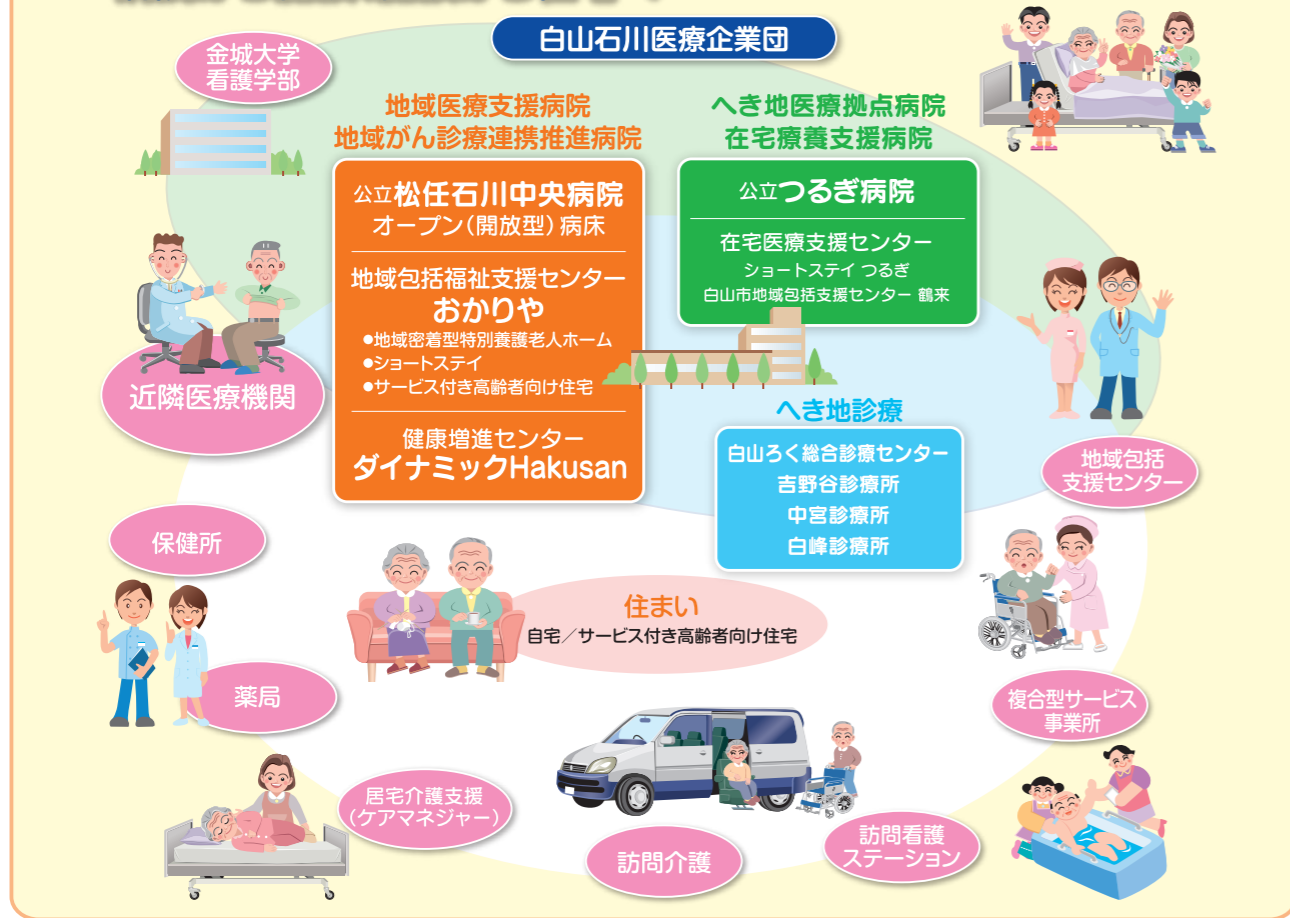


●訪問診療に出発する医師（右）と看護師



●医師（右）が患者さんの自宅に向く訪問診療

病院から施設、施設から在宅へ～住み慣れた地域で安心して暮らせる“まちづくり”～





白山石川医療企業団 基本理念

私たちは、みなさまの健康な生活を支えるために

- 期待にこたえられる良質な医療・介護に努めます
- 安心・安全で信頼される医療に努めます
- 切れ目のない包括的なケアに努めます

公立松任石川中央病院

TEL : (076) 275-2222 / FAX : (076) 274-5974



- 住所 石川県白山市倉光三丁目8番地
- アクセス JR松任駅からバスが運行されています

地域包括福祉支援センター おかりや

地域密着型特別養護老人ホーム
ショートステイ
サービス付き高齢者向け住宅
TEL : (076) 274-2000
FAX : (076) 274-2151



公立つるぎ病院

TEL : (076) 272-1250 / FAX : (076) 272-3144



- 住所 石川県白山市鶴来水戸町ノ1番地
- アクセス ・加賀産業道路「安養寺北」交差点より国道157号を白峰方向へ10分
・北陸鉄道石川線「鶴来駅」から徒歩10分

吉野谷診療所



中宮診療所



白峰診療所



白山石川医療企業団
公立松任石川中央病院
公立つるぎ病院

市民公開講座・業務改善報告会

[日時] 令和6年1月13日(土) [場所] 松任学習センタープララ コンサートホール
午後1時30分～4時

入場無料

オープニング セレモニー

1時30分～1時45分

公立松任石川中央病院アンサンブル演奏

- 公立松任石川中央病院 麻酔科医長 バイオリン 懸川まどか
- 放射線科医長 ピアノ 寺田華奈子
- 地域包括福祉支援センターおかりや 施設長 フルート 池田 紀子

第一部 講演会

1時50分～2時35分

演題

最適な大腸がん治療を 目指して

～大腸がんロボット手術～

公立松任石川中央病院
救急医療部長兼外科部長

中村 慶史

【無料シャトルバス運行】

公立松任石川
中央病院
(正面入口前) ↔ 会場

正午より午後4時30分まで
会場には駐車場が少ないので
シャトルバスを利用してください

第二部 業務改善報告会

2時45分～4時

病院で行っている業務改善の実践事例を分かりやすく説明します。

白山石川医療企業団

1. コロナ禍で行った患者・職員満足のための経営意思決定

経営企画部 金木 亮

公立松任石川中央病院

2. 監査員にフォーカスした診療記録監査の質向上の取り組み

地域支援部 山元 涼

公立つるぎ病院

3. 組織間連携で支える歯科口腔ケアの取り組み

看護部 酒井 尚美

4. 公立つるぎ病院におけるACPの取り組み

看護部 星野 真紀

白山ろく総合診療センター

5. ～健康寿命を延ばそう!プロジェクト～健康調査報告

白山ろく総合診療センター 山田 真也

講評